

指導計画 (部分・責任)

実習指導者

サインまたは㊟

実習生氏名

サインまたは㊟

20xx 年 ○ 月 ○ 日 (△)		場 所	ホール・遊戯室
主な活動 (題材)	ふれあいあそび・柔軟あそび		実習 クラス (未就園児親子) 歳児 (15) 組 男児()名 女児()名 計(30)名
幼児の姿 (前日までの 幼児の姿)	未就園児と保護者での取り組み。親子でスキンシップを図りながら、様々な動きを楽しんでもらう。保護者同士のコミュニケーションのきっかけになることも期待する。体を動かすことでリフレッシュすること、我が子の成長を感じることで、子育ての気づきを見つけられることを願う。		保育活動 のねらい ・保護者と共に動く楽しさを知る、体験する。 ・触れ合いながら体を動かし、スキンシップを図る。 ・保護者と一緒にできる様々な動きを楽しむ。 ・柔軟性が高まる様々な動きにチャレンジする。
時間	環境構成	予想される幼児の活動	保育者の援助・配慮
10:00 (導入)	【ホール・遊戯室】 ・危険な物がない空間で行う。	・保育者のまわりに親子で集まる。 ・保育者の掛け声でジャンプあそび。 ・1人でジャンプをする。 ・親子で向かい合い両手をつないでジャンプをする。	・動きやすい服装で行う。 ・転倒しないように素足で行う。 ・保育者のまわりに親子で集まるように伝える。 ・導入で、心と体を温める。
10:15 (展開)	【準備物】 ・タンバリン	・手をつないだまま回りながらジャンプをする。 ・親子で握手をし、引っ張り合いをする。 ・親子で向かい合い、両手を合わせて押し合いをする。 ・柔軟あそびを始める前に輪になって座る。 ・あぐらをかいた子どもを後方から包み込むように座り、子どもの足首をつかむ・片足ずつ交互に曲げる。 ・両足でゲー・バーを繰り返す。 ・「うさぎとかめ」のリズムに合わせて動きを楽しむ。 ・子どもが開脚になり、そのまま可能なところまで前屈になるよう押ししてもらう。 ・ぎゅっ、ぎゅっとして押しもらい楽しむ。 ・保護者が子どもを抱っこして背中を反らせ、頭が下になる感覚を味わう。 ・左右に揺さぶられる動きを楽しむ。 ・高さを体験して、逆さの感覚を知る。 ・自宅でも取り組んでみてほしいと呼びかける。	・しっかり動いているかを見守り、言葉をかける。 ・無理はしないように言葉をかける。 ・柔軟性を遊びながら高めることを説明する。 ・「右・左……」と言葉に合わせて動かすところから始める。 ・慣れてきたら「もしもしかめよ」の唄に合わせて動かす。 ・リズムに合わせて動かすことを楽しむ。
10:25 (まとめ)			・怖がる場合は、立ち上がる必要がないことを伝える。 ・頭が下になる逆さ感覚は脳の刺激になることを伝える。
10:30			
自己振り返り・評価等	総合活動としての未就園児と保護者のふれあいあそび・柔軟あそびは、触れ合いの中で親子のスキンシップを図ることが楽しさのひとつである。様々な動きにチャレンジしながら、親子で共に楽しんでもらえたらよい。柔軟を体を柔らかくするために頑張るものと捉えるのではなく、遊びの中に自然に取り入れることがポイントである。健康のねらいである「自分の体を十分に動かし、進んで運動しようとする」ことにつながるのではないかと思われた。		